

## 令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

「小学校 第5学年 「家庭科（東京書籍）」

42時間（70%）

週	指導事項	題材名	小題材名	時間数	留意点
1	A(1)ア	ガイダンス		1	
2	A(2)ア	1 私の生活、大発見！	①どんな生活をしているのかな	0.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭の仕事調べ」は家庭学習とする。</li> <li>・家庭科室の探検や調理器具の使い方は実際に行わず、写真や動画を活用する。</li> <li>・家庭での仕事の計画を立てさせる。</li> </ul>
	A(2)アイ B(2)ア		②自分にできそうな家庭の仕事を見つけよう	1	
	A(2)イ		③できることを増やしていこう	0.5	
3	B(2)ア(7)	2 おいしい楽しい調理の力	①調理の目的や手順を考えよう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆでる調理を指導し、ゆでる材料は青菜とじゃがいもを扱う。</li> <li>・ゆでる調理の学習は、動画等を活用して指導する。</li> <li>・調理実習は家庭で行い、活動記録をまとめるなどの学習活動を取り入れる。</li> </ul>
4	B(2)ア(7) (4)(7)(E)		②ゆでる調理をしよう	3	
	B(2)イ		③工夫しておいしい料理にしよう	1	
5	B(5)ア(4)	3 ひと針に心をこめて	①針と糸を使ってできること	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手縫いの基礎、ボタン付けを理解し、できるようにする。</li> <li>・製作物は、限られた時間内で製作できるものを選択する。</li> </ul>
6 7	B(4)ア(4) B(5)ア (7)(4)		②手ぬいにトライ！	5	
8	B(5)イ		③手ぬいのよさを生活に生かそう	1	
9 10	C(1)ア(7)	4 持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方	①上手に選ぶために考えよう	0.5	
	C(1)ア(7) (4)イ C(2)ア		②買い物の仕方について考えよう	3	
	C(2)アイ		③上手に暮らそう	0.5	
11 12 13	B(1)ア	5 食べて元気！ご飯とみそ汁	①毎日の食事を見つめよう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理の学習は、動画等を活用して指導する。</li> <li>・ごはんとみそ汁の調理、だしの役割を扱う。</li> <li>・調理実習は家庭で行い、活動記録をまとめるなどの学習活動を取り入れる。</li> </ul>
	B(2)ア(7) (4)(7)(オ) B(3)ア (7)(4)		②日常の食事のとり方を考えて、調理しよう	5	
	B(2)イ		③食生活を工夫しよう	1	
14 15	B(6)ア(4)	6 物を生かして住みやすく	①身の回りや生活の場を見つめよう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除は家庭で実践する。</li> <li>・家庭での実践の評価・改善は、紙面発表など方法を工夫する。</li> </ul>
	B(6)ア(4) イ		②身の回りをきれいにしよう	3	
	B(6)イ C(2)アイ		③物を生かして快適に生活しよう	1	

16	A(3)ア(7)	7 気持ちがつながる 家族の時間	①家族とふれ合う時間を見つけよう	0.5	・家庭での団らんの計画を立てさせる。
	A(3)ア(7)イ		②わが家流団らんタイム	1	
	A(3)イ		③団らんを生活の中に生かそう	0.5	
17	B(5)ア(7) (4)	8 ミシンにトライ!	①ミシンぬいのよさを見つけよう	1	・ミシン縫いの基礎を理解させる。
18 19	B(5)ア(7) (4)	手作り楽しい生活	②ミシンにトライ!	6	・製作物は時間内で製作できるものを選択する。
20	B(5)イ		③世界に一つだけの作品を楽しく使おう	1	・グループでの学習(実習)は行わないようにする。
21	A(1)ア		5年生のまとめ	1	・6学年で扱う場合は、5学年では扱わなくてもよい。
	A(4)ア		生活を変えるチャンス!	*2	

\*は総時数に含んでいない。

### ※時間数の精選方法(例)

- 知識・技能を活用して「思考力・判断力・表現力等」を身に付けさせる場面を精選する。
- ・指導計画において、複数の場面で指導事項のイが位置付けられている場合は精選することで時数削減に繋がります。
  - ・問題解決的な学習の過程で行う題材を各学年で絞り、確実に行うようにします。

- 小題材をまとめて指導したり、内容の関連を図ったりする。
- ・例えば、B(4)衣生活「季節や状況に応じた日常着の快適な着方」とB(6)住生活「季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方」は、夏・冬の2回学習が設定されているため、関連付けて指導することで時数の削減に繋がります。

- 実験や実習の内容を見直したり、映像資料や家庭での実践に換えたりする。
- ・例えば手縫いの技能など、身に付けさせる事項や袋物の製作など指定された題材を指導します。また、製作する小物などは限られた時間内にできあがるものを選択します。
  - ・調理実習は学校では行わず、写真や映像資料を活用して調理の知識及び技能を理解させ、家庭で実践できるようにします。調理技能の習得について、5年生の場合は次年度の学習で補っていくことも考えられます。

- 「A 家族・家庭生活についての課題と実践」は、2学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させる。
- ・5学年で既に履修している場合には、6学年で履修しないことも可能です。また、今年度の5学年は履修せず、次年度に履修することができます。
  - ・5・6年生共に、今年度履修する場合には、「課題設定」、「計画」、「評価・改善」を学校で行い、「実践」は長期休み等を活用して家庭(可能であれば地域も含む)で行います。さらに時数に限りがある場合、「計画」を家庭で立てさせたり、発表を紙面で行ったりすることも考えられます。

\*令和2年5月1日付文科省「新型コロナウイルス感染症対策の現状を踏まえた学校教育活動活動に関する提言」において、リスクの高い学習活動を行わないと示されており、その例として「家庭科における調理などの実習」が挙げられています。

\*実習等では、できるだけ個人の教材教具を使用し、児童同士の貸し借りはしないようにします。ミシン等の器具や用具を共用で使用する場合は、使用前後の適切な消毒や手洗いを行うとともに、用具に番号を付けて使用する児童を限定するなどの配慮を行います。